

きのくに子ども NPO

2020. 3. 1. 発行

雨のち晴れ あげ日和！



3月25日(日)



凧あげ大会は入会6年目にして初参加。せっかくの機会なので、4才の次男といっしょに大会前週の凧作りにも参加しました。次男は凧本体の作成をほぼ母任せで走り回っていましたが、大きく絵を描き入れて完成させたオリジナル凧に大喜び。凧揚げ大会でケンカにならないよう、長男も同じ形の凧を自宅で作りました。

大会当日、明け方までの雨で地面の状態は悪く、風邪も冷たい中でしたが、スタッフさん手作りの熱々の豚汁で体が温まったあと、思い思いに凧を揚げました。凧を買ったものの揚げられる場所が限られ、揚げても遠慮がちな凧揚げしかしたことがなかった長男は巻いていた糸を最後まで伸ばしきり誇らしげ。入賞には及ばず悔しそうでしたが骨なしの手作りビニール凧が、まさかここまでの出来だと思わず(失礼!笑)また、たくさんの凧が揚がる光景は壮観でした。ホクホクの焼き芋も食べ、大満足の日になりました。(上谷)

舞台鑑賞

キッドナツプツアー

劇団うりんこ

3月1日(日) 13:30~

市民会館 市民ホール

高学年~大人

第 149 号

きのくに子ども NPO

〒640-8401

和歌山市福島487 ルミノープふい1C

Tel.Fax: 073-452-7710

E-mail: kinokuni.kodomo@nifty.com

<http://kinokunikodomo.d.dooo.jp/>

「高くあがったで賞」

えのきなつき さん(5才)

「ステキな凧で賞」

きしふみあき さん(5才)

「凧をあげる姿がカッコイイで賞」

藤原久徳 さん(小5)

今年の凧あげ大会では、たくさんの部門を設けて、参加者がエンタリーして、優秀賞を決めました。
入賞したみなさん、おめでとう！他の部門に入賞した人にも賞状が「サプライズ」で届くので楽しみに待っていてください。



↑「だるまさんがころんだ」
それっ、逃げろ！！



↑ ならんで豚汁をもらう

人形劇

「はれときどきぶた」

2月16日(日) 市民会館 市民ホール
人形劇団ひとみ座

幼児・低学年向
鑑賞事



たまちゃんのキャラが良かったです。
オシャレでした。(中本 大人)

原作もおもしろいですが、また違った世界観があり、とても楽しめました。(明石 大人)

子どもも私も退屈することなく最後まで楽しめました。笑える場面がたくさんあって面白かったです。

“今日の夕食は天ぷらよ〜” 天ぷらを作るシーン、衣をつけて揚げてフライになるまで細かいところまで小道具作っていて凄いなと思いました。(北島 大人)



劇団の人に
プレゼント
渡しました



おもしろかった
きし ときはる(小3)

今回の鑑賞はきのぴーの担当でした。みなさん、ありがとう！
人形劇の後、バックヤードツアーもあって楽しかったですね。



中しま きりゅう(小2)

ちょっとこわかった。
きんぎょのあっかんべーがおもしろかった。
(ひきど さき 幼)



せんろはつづく

「イメージあそび」 2月9日(日) 河西コミュニティ

きのPには娘に劇を見せたくて入会しましたが、入って2年以上、観劇になんとか参加できるくらいで、他の活動には私の仕事のこともあり、なかなか参加できていませんでした。今回のイメージ遊びは、「ごっこ遊び」が好きな娘にちょうどいいかな？と思い、参加しました。

受付でつけた名札代わりのテープの色でグループになり、まずは練習。山や川を体で表現しました。それから題材となる絵本を読んでもらって、新聞で線路を作り、大人が山や川、踏切を体で表現して作っていきます。そして子どもたちが電車のように連なって、線路を走っていく。ある男の子の提案で、線路の切り替えと車庫を作ったのは、発展があり素晴らしかったです。



参加されていた保護者の方々も、ノリよく川になったり、踏切になったりされていて、大人も楽しめた会でした。こういう時、子どもと真剣に遊ぶことって大事だなと改めて思いました。

最後に新聞をはがしてキレイな体育館になると、現実に戻り少しさみしさが漂った感じがしました。頭の中だけでイメージするのではなく、体感できる経験を親子でもつことができ、短い時間でしたが有意義なときでした。(堤)



小学六年生日記

原



和歌山大学で社会教育を学んでいる福田智也さんがきのくに子どもNPO に実習に来られました。ぐるんばでママたちの子育て話を聞いたり、プレーパークで子どもたちと遊んだり、スタッフから子育て事情や地域の課題などの説明を受けました。

最初は子どもたちに馴染めるか不安な部分もありましたが、行事が始まるとすぐに駆けつけてボードゲームなどを使って本気で遊ぶことができ、一員として受け入れられていることを実感しました。風揚げ大会の日では広場でひたすら追いかけて正直大変でしたが本当に楽しかったです。また、地域の皆さんともご飯の時間などで一緒に過ごしてもらい、地域の皆さんの心のつながりが深いことも感じました。

村田和子先生の社会教育実習の一環で「きのくに子どもNPO」の活動に参加させていただきました。主に「こ・むすび」や「こ・はうす」への参加や、主催する行事のお手伝いをさせていただきました。



和歌山大学教育学部三回生
福田智也

2019年度きのぴー交流会 3月28日(土)～29日(日)

新中学生～高校生・青年の交流会を毎年開催しています。異年齢の大人たちが集まり、意見を出し合い、ひとつのことを創りあげるなかでコミュニケーションのスキルアップを目指します。

田中教授はどこ？！

ある大学の新学期。
日本で有名な物理学者、田中教授は理工学部の学部長です。昨日も学会で発表し、大成功をおさめました。

今朝、教授は研究室の机に向かって講義の準備をしていました。

そこへドアをノックして入ってきた新入生が、教授の顔を見ながら、「田中教授はどこにいらっしゃいますか？」とたずねました。

「私ですが」と教授は答え、(ああ、またか…)とため息をつきました。

(和歌山県 すすめよう！男女共同参画パンフレットより)

※田中教授はなぜ、ため息をついたのでしょうか？

2019年12月17日に発表された世界経済フォーラムでは「ジェンダーギャップ指数」が153カ国中、過去最低の121位の日本。社会ではいろいろな声が上がっているけれど、みんなはどんな風に感じているのかな？

関心の高い「LGBTQ など性の多様性」や「ジェンダー」についてそれぞれの考えや思いを出し合ってみます。みんなに聞いてみると差別されたり、差別したりすることはないという意見が多いです。

さあ、みなさんはどうですか？